

第十七節 分離中の諸事

(年)

(主なできごと)

二十一 ○二月二日 奄美の歴史的転換―本土分離の日

二・二宣言によって日本の領域は北海道、本州、四国、九州及び一千にのぼる小島嶼と定義された。この定義によって、とくに指定された所は対島諸島、北緯三十度以北の口之島を除く南西諸島に限られ、鬱陵島、竹島及び濟州島、それに北緯三十度以南の琉球、奄美大島をふくむ南西諸島は、伊豆南方小笠原諸島及び火山(硫黄)列島その他の外辺の太平洋諸島とともに日本の領域から除外された。さらに、前の戦いで日本が奪取または委任統治等によって占領した太平洋の島嶼及び満州、台湾、澎湖、朝鮮、樺太も除外された。

二十一 ○九月一日 知名村に町制実施。

二十二 ○七月二十日 低物価政策実施。

○九月二十日 南西諸島知事豊島至氏知名で病死。後任中江実孝氏

二十三 ○一月一日 沖永良部巡回裁判所設置。(軍政府命令十六号)

○四月一日 六・三制の学制が実施され、和泊町の四国民学校の初等科は各々四小学校に、高等科は和泊は和泊一中、大城・内城は和泊二中、国頭は和泊三中として発足した。

二十四 ○四月一日 沖永良部高等学校設置。

和泊・知名の両実業高等学校を母体として沖永良部学校組合立沖永良部高等学校が設立され、重村中久氏が初代校長となり、和泊知名両教室に別れて発足した。

旧和泊町実業高等学校教室において和泊教室を開設、実業高校一年修業生を普通科一年に同校二年修業生および三年卒業生を普通科二年に、同校卒業生および修業生を別科一年に編入した。

○七月 戦後はじめてゆり根が本土へ輸出され

た。

二十四 ○沖永良部警察署落成祝賀。北大島対南大島の角力大会が高千穂神社で行われた。

二十五 ○七月一日 大山に米軍基地おかる。

米軍のレーダー部隊が進駐して来た。約一個中隊で、テント兵舎とカマボコ兵舎を作った。兵力は時によって増減があった。

○十月二十二日 知事および民政議員公選（奄美群島政府発足に備えて）。

知事選挙（十月二十二日）。

中江実孝氏と笠井純一氏の一騎打ちとなったが中江氏が六万票余りを獲得当選した。

群島議員選挙（十月二十七日）。和泊町から逆瀬川助直氏、知名町から吉松軍八氏が当選した。

○十一月二十五日 奄美群島政府の開庁式奉行。（知事・議員の就任式を兼ねて）

二十六 ○二月十四日 日本復帰の熱意高まり復帰協議会を結成活発な運動を展開した。

○三月三十一日 沖永良部巡回裁判所廃止。

○四月一日 米軍特別布告第三十八号により、沖永良部治安裁判所設置。

○六月二十五日 沖永良部高校が現在地に合併移転した。

現在地に新校舎木造建二百四十五平方メートルが落成したので和泊・知名両教室の茅葺バラック六棟の移転ならびに備品を運搬。

○九月十日 和泊・知名両教室を合併して授業を開始した。

○十月 琉球銀行沖永良部支店創設。和泊町和泊、旧産業組合倉庫跡地に建設。支店長沖野松盛氏。

○十二月十四日 庁舎着工、二十七年二月二十七日 竣工。

和泊町和泊字与名原五〇一ノ一

（和泊町農協所有地）

木造トタン葺平屋建二十六坪（二〇五一、五〇〇B坪）

判 事 富井信雄

書記官 撰 正敦

書記官補 土持隆繁

二十七 ○三月二日 琉球立法院議員選挙。

第二区より藤村前吉氏当選。

○十月二十三日 知名に測候所ができた。（琉球政府告示第四十二号）

瀬利寛、向田神社前三百五十九坪。

初代所長重村康雄氏。

昭和二十八年十二月二十五日、日本復帰に伴い、名称を「沖永良部測候所」と改めた。

昭和四十四年五月一日沖永良部空港へ移転した。

参考資料

- 1、永吉毅編 郷土史年表
- 2、和泊町編 和泊町勢要覧
- 3、知名町編 知名町誌